

研究主題

創造性の育成に関する研究

一直観・想像・思考を重視した問題解決を図るための指導の工夫

I 研究の背景とねらい

現状と課題

社会的な背景

- ・ 科学技術の進歩
- ・ 国際経済社会の急激な変化
- ・ 知識社会への移行
- ・ 産業・就業構造の変化
- ・ 価値観の多様化
- ・ 子供たちの知性・感性・
道徳心や体力等の育成

関係調査の結果

生徒の学習到達度調査 (PISA 2006)

- 知識の応用、思考や推論、論述を求めたりする領域に課題

平成20年度全国学力・学習状況調査結果 (平成20年8月文部科学省)

- 知識・技能を活用する力に課題
 - ・ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行っている学校の方が児童・生徒が熱意をもって勉強している割合が高い傾向が見られる。
 - ・ 児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている学校や、適切にノートをとるなど学習方法に関する指導をしている学校の方が、記述式問題の平均無解答率が低い傾向がある。

21世紀の教育が目指すもの

○「知の世紀」をリードする創造性に富んだ人間の育成

- ・ 豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成
- ・ 自己実現を目指す自立した人間の育成
- ・ 相手の考えや気持ち、立場などを「想像」し、新たな関係や社会を「創造」していく力

※「新しい時代ふさわしい教育基本法と教育振興計画のあり方について」(答申) (平成15年3月)

関連施策・提言

<国>

- 教育基本法 (平成18年12月改正)
- 「教育振興基本計画について～『教育立国』の実現に向けて～」(答申) (平成20年4月)

<東京都>

- 東京都の教育目標
- 東京都教育委員会の基本方針に基づく平成20年度の主要施策 基本方針
- 東京都教育ビジョン(第2次)(平成20年5月)
 - II 2 好奇心を広げ、試行錯誤を繰り返しながら成長していくことのできる教育
 - 2(1)相手の考えや気持ち、立場などを「想像」し、新たな関係や社会を「創造」していく力

研究のねらい

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤となる「知識基盤社会」とあるといわれている。このような社会を生き抜いていく子供たちには、様々な課題に立ち向かい、乗り越えていくための知恵と実行力が必要である。そのためには、幼少の頃からの様々な体験を生かして、自ら学び、自ら考え、主体的に物事を創造し問題解決を図る習慣や態度の育成が求められる。

本研究では、幼児・児童・生徒が新しい知の創造とそれを活用できる力の基盤となる「創造性」をはくむことができるよう授業改善に向けた指導資料を開発することをねらいとした。

<一年次>

- ① 創造性の構成要素と創造性を評価する因子を明確にし、「発達段階に応じた創造性を伸ばすための指導の手だて一覧(例)」を提示する。
- ② 創造性を育成するための構成要素を踏まえた問題解決を図るための指導モデルを提案する。

<二年次>

- ① 幼児・児童・生徒の創造性の伸びに関わる調査研究や検証授業等の実践研究を通して効果的な指導法を開発する。
- ② 各教科等における創造性を伸ばすための指導資料を開発する。